



Walk with Children めぐる



せいび

209号  
2025年2月

**聖年にあたり、「…真の永続的な平和、真の平和を求めましょう。」**

「世界平和の日」教皇フランシスコのメッセージ

学校長 シスター小島 理恵

校報せいび1月号で、今年2025年が「聖年」であることをお知らせしました。この恵み多き年に、世界が平和への一步を本当の意味で踏み出すことを願ってやみません。「2025年 聖年『希望の巡礼者』東京教区巡礼教会」で検索しますと、15の教会名が出てきます。その一つに、サレジオ修道会が担当する「調布教会」があります。入り口には、ドン・ボスコと少年の像もあり、私たちにはなじみのある教会だと思えますが、それらの教会のいくつかでも巡礼しながら祈りをささげることができれば、平和への私たちの願いが必ずや神様に届けられることと思えます。また、世界中の至る国、至る場所にも、巡礼教会がありますが、イタリアのニツァにあるサレジアンシスターズの修道院の教会も巡礼教会に指定されました。しかし、多くの巡礼者を迎えるため、建物や敷地などの修復が必要です。皆様からの応援があれば幸いです。別紙にてお知らせしますので、ご協力をお願い致します。

「平和・安心・生活の保障」は、私達すべての人間に保障されるものです。一人もそれに与れない人はいません。子ども達と共にこれからも世界の平和のために祈り続けたいと思います。

コンネッショナー  
**Conessione** ~つながり~

「Conessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。

ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。

**心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。**

マタイ 18章3節  
教頭 細谷 勇太

今年の節分は3日ではなく2日であるということ直前になって気づきました。例年と違いに、改めて暦の意味に気づかされます。いわゆる「節分」は、旧暦の立春が新年であったため、現在の大晦日のような日にあたるようで、新年を迎える前に邪気を払う目的ではじまったといわれています。年の変わり目に自らの愚かな面や怠け心を払いのけ、1年の無病息災を願う行事として豆まきをしたり、恵方巻やイワシを食べたりする風習が今も残っているそうです。

1年生は生活科学習として節分集会を行い、教員や6年生が扮する目に見える「鬼」に、1年生たちは豆を模した紙球を投げて追い払う活動を行いました。子ども達の追い出した鬼は、学校生活や登下校など、皆の身近な課題に目を向けたものが多く見られます。自分達に見えているものの中で素直に課題を見つけているように感じます。イエス様の言う「子どものようになりなさい」が私たち大人に与える示唆を、豆をまく1年生の姿から考えさせられました。

## 1月の学校より～

### ラウラ・ヴィクニーアの記念

1月22日に行われたラウラ・ヴィクニーアのお祝いの集いでは、全校児童にラウラのことをより知ってほしい！伝えたい！という思いから、どのような集いにするかをP.A.M.内で話し合いました。

ラウラ・ヴィクニーアは、他者のために当たり前のことも丁寧に心を込めて取り組む女の子でした。そんな善の心の伝え方を考え、宗教の授業で習ったことを、劇で表しました。

みんなの前で発表する機会を重ねるたびに、話し方や取り組む姿勢を自分たちで考えることもできるようになり、これらの経験があらゆるところで活かされることを期待しています。

5年

私達P.A.M.は、1月にあったラウラ・ヴィクニーアのお祝いで、より多くの人にラウラのことを知ってもらおうとみんなで意見を出し合い、協力して準備をしました。

体育館で本番と同じように練習したり、時には、朝少し早く集まって練習をしたりしました。そのため、本番ではスムーズに発表をすることができました。

私はこのお祝いで、どんなにつらいこと悲しいことがあっても、いつも神様の事を思い生活していたラウラの行いを改めて知りました。私もラウラのように、神様に感謝して小さなことを大切に生活できるようにがんばりたいと思いました。



### 委員会の取り組み

#### 仲良し委員会

毎朝1年生の教室に入り、朝の支度のお手伝いや体育館朝礼への誘導を行っています。6年生から引き継いだ仕事を5年生のみで一生懸命取り組む姿に頼もしさを感じています。子ども達は「笑顔あふれる学校」を目指してアイデアを出し合いながら頑張っています。

5年

仲良し委員会では、毎日1年生の朝の支度を手伝ったり、声かけをしたりしています。1年生が名前を覚えてくれることで、頑張ろうという気持ちになります。また、クラスで休み時間に楽しめる遊びを紹介しました。実際に「ばくだんゲーム」や「聖徳太子ゲーム」をやった時、クラスみんな盛り上がって楽しんでくれてとても紹介してよかったとはげみになりました。私たちは、『みんなが楽しいと思える企画を協力して考え、笑顔あふれる学校にする』という目標をかかげています。これからも、6年生から学んだことを活かして、みんなが楽しかった、おもしろかったと思えるような遊びを考え、委員会活動を盛り上げていきたいです。

#### 生活委員会

生活委員会の児童は、朝一番の活動として、全校児童へのあいさつ活動を行っています。元気なあいさつを行うことで、学校中を元気一杯にしようとして取り組んでいます。また服装の乱れがないように声掛けを行い、校内での安全な移動や教室内の整理整頓などについてもポスターなどで呼び掛け気持ちよく学校生活を送ることができるよう力を注いでいます。

5年

私たち生活委員会は、毎朝7時50分から8時05分まで全校児童へのあいさつ活動や身だしなみについての呼びかけなどを行っています。他にもあいさつスタンプラリーという特別企画で全校のみなさんへあいさつに対して関心を持ってもらえるように活動しました。今、特に私たちが力を入れているあいさつ活動は、朝から全校児童が明るく元気な声を出せるようなあいさつを心掛けています。校内をあいさつでいっぱいにするので、朝から気持ちよく過ごせるような学校にしていきたいです。これからも生活委員として責任を持って活動していきたいです。



## ドン・ボスコのお祝い

お祝いに向けて徳の花を準備し、1月31日に全校でドン・ボスコの祝日を迎えました。

会場に来てくれたドン・ボスコは子ども達と語り、先生方とも曲芸を披露してくれました。その後、5年生が宗教劇「靴屋のマルティン」を演じました。創立者を讃えるよい時となりました。

### 1年 ドン・ボスコのお祝い

はじめてのドン・ボスコのお祝い。何よりもドン・ボスコの喜びを体感できた1日でした。

きょうは、ドン・ボスコのお祝いでした。わたしは、5年生のげきがいちばんすきでした。げきは、「くつやのマルティン」というだいい名でした。わたしがげきの中で、いちばんすきなぼめんは、マルティンが、おじさんからせいしょをもらって、げん気をとりのどしたぼめんです。げきのうたも、とてもすてきでした。

### 2年 ドン・ボスコのお祝いから学んだこと

わたしは、自分ができることを、一生けんめいにとりくむこと、生活をしていてつらいことがおこってしまっても、のりこえていくことが大切だということを学びました。また、自分がとくいなことは、ずっとつづけていくこと、ゆうきを出して何でもやってみるということもがんばっていきたいと思います。

これからは、えがおで、何ごともあきらめないことをがんばりたいです。

### 3年 ドン・ボスコのお祝いを通して

わたしは「we love ドン・ボスコ」の代表でした。たくさん練習したので、はっきりと「9才の夢のメッセージ」を伝えることができました。

靴屋のマルティンでは、不幸になってしまったマルティンが聖書をきっかけに、段々と元気を取り戻していったことが印象に残りました。このことから、どんなに落ち込んでも、イエス様のことを思い出して元気に過ごしたいと思いました。

### 4年 5年生の宗教劇「靴屋のマルティン」を観て

劇を見て、自分だけがうれしくなるのではなく、周りの人も自分もうれしくなることをやって、みんなを笑顔にしたいと思いました。演技も上手で内容も分かりやすく、学ぶことがたくさんありました。

宗教劇はとてもすごかったです。一つひとつの言葉にしっかり感情が込められていたのがよく分かりました。僕も来年やるので、演技などに感情をこめてみんなに伝えたいです。

劇のサマリア人の部分で、司祭が眼鏡をかけた瞬間にユダヤ人に気づいたのが面白かったです。毎年違う劇だけれど、このような劇を来年やるのだなあと思うと緊張してきました。



### 6年 5年生の劇を観て

ぼくも5年生だった昨年、劇をやったけれど、今年の劇はレベルがものすごく上がったと思いました。さらに、6年生に向けていそがしくなる中、劇のためにみんなで協力して練習しようという気持ちがとても大切だと、5年生の姿を見ていて思いました。「くつ屋のマルティン」の話は聞いたことがなかったけれど、5年生のおかげでよく分かりました。

特に心に残ったのは、歌です。もちろん劇もよかったですけれど、歌に心が込められていてすてきだと感じました。歌詞の中に意味が込められていて、その一つひとつから、平和がどれだけ大事なかが伝わってきて感動しました。ぼくもマルティンのように、愛を込めて残りわずかな小学校生活を人のためにがんばっていきたいと思いました。

5年生のみなさん、すてきな劇をありがとうございました。

### 6年



昨年7月に帰天されたSr.中澤昭子元学校長は、本校でも多くの宗教劇を演出されてきました。その中の一つ「靴屋のマルティン」は、聖書と出会うことで自身の困難から立ち上がり、隣人への愛の実践を通して救われていきます。67期の子ども達は、この物語を通してのメッセージを劇と歌でしっかりと伝えることができました。

#### 友達との関わり方

5年

「隣人を大切にしてください。」これが靴屋のマルティンを通してみんなに伝えたいことでした。

2月3日、4年生からのお手紙を読んでとてもうれしく思いました。なぜなら自分たちが伝えなかったことが伝わったからです。クラスでも、友達との関わり方について話していて、靴屋のマルティンに出てくる「隣人を大切にしてください」はどんな人にも優しく接するというので、これからの解決に役立つと思いました。

みんなに伝えたことを自分たちも忘れずに学校生活を送っていき、より楽しいクラスを作れるように頑張っていきたいです。そして他の学年にも優しく接して、手本となる6年生になりたいと思いました。

5年

今年の宗教劇は「くつ屋のマルティン」だった。何もかも知らなかったの、最初の頃は、ただ台本を棒読みするだけだった。何も知らないことをやるというのは、とてもドキドキすることだった。でも、そこから身ぶり手ぶりを考え、劇をよりよいものにしようががんばった。教室、ミレニウムホール、そして舞台でと練習していくうちに、確実に成長していくことができた。

本番の時には全く緊張しなかった。それは、たくさん練習して自信がついたからだと思う。本番は、とても上手にできた。練習でこんなに自信が持てるとは思わなかった。

これから、練習すること、そして自分に自信を持つことを大切にしていきたい。

#### くつ屋のマルティンが教えてくれた事

5年

ドン・ボスコのお祝い日の1月31日に、私達五年生は「くつ屋のマルティン」という劇をしました。

練習を始めたころは身ぶり手ぶりも少なくても声もそんなにでていなかったけれど、みんながアドバイスをしてくれたおかげで身ぶり手ぶりもふえて、声もしっかり出せるようになりました。最初のころと比べると、とても成長したなと思いました。

この劇を通して分かったことは、友達や先生のアドバイスや協力があつたからこそ劇をやりとげることができたということです。みんなが助けあつて練習したおかげでメッセージの伝わる良い劇になりました。みんなにはもちろん感謝したいし、この素晴らしい劇を作ってくれた中澤シスターにも感謝したいです。

この宗教劇を通して、私達が伝えたいメッセージが伝わっていると嬉しいです。



5年

わたし達は発表の日に向けて精いっぱい練習してきました。その中で心に残った瞬間がありました。それは、通しげいこを終えた後に先生からクラスの課題を問いかけられ、みんなで意見を出し合つて考えた時のことです。最後の場面を任されたわたし達は、どうしたらより良くなるのか真剣に話し合いました。すぐに実践してみると前よりもぐんと上手になり、自分達で試行錯誤した後に成功することがこんなにもうれしいのだなと思いました。

わたしは、この劇を通して、本当に成功させたいと思えばたくさんの練習も工夫も苦にはならないことを学び、これからも一生けん命に取り組むことを大切にしたいと思いました。



## 朝マラソン・朝縄跳び

この時期恒例になった朝マラソンと朝縄跳びが、今年も行われました。吐く息が真っ白な校庭に、元気よく走り出す子どもたち。「今日は〇周走った!」「あと〇周走りたかった!」「今日は負けないぞ!」などの声が聞かれ、朝のマラソンを楽しみに走っている様子が見られました。また、体育館では縄跳びのチャレンジが行われ、得意な技の記録を伸ばす子や、苦手な種目に一生懸命練習する子がたくさんいて、その日その日の達成感を味わっていました。

